

## 琵琶湖森林づくり事業のこれまでの取組成果

～ 琵琶湖森林づくり基本計画の進捗について ～

「琵琶湖森林づくり事業」は、「琵琶湖森林づくり基本計画」を着実に推進していくため、「環境重視」と「県民協働」の新しい2つの視点による森林づくりであり、平成18年度から琵琶湖森林づくり県民税を活用しながら、諸施策に取り組んできました。

その成果等は、年度毎に、「琵琶湖森林づくり基本計画 進行管理および基本指標達成度に対する点検・評価シート」(別紙)により取りまとめを行っています。

シートの構成は、「1 環境に配慮した森林づくりの推進」「2 県民協働による森林づくりの推進」「3 森林資源の循環利用の促進」「4 次代の森林を支える人づくりの推進」の琵琶湖森林づくり基本計画の基本施策からなり、その内容は、事業実施の翌年度において、滋賀県森林審議会にお諮りし、それぞれの施策に関連する各事業の推進の状況、問題点等、これらを踏まえた森林審議会での施策の方向性や進捗等についての評価等、およびこれらを受けた県の対応方針です。

各基本施策の基本指標項目および数値目標達成度等についての概要は、以下の通りです。

### ( ) 環境に配慮した森林づくりの推進

中期目標(H17～21までの目標)

【環境林面積】(再掲)

環境林整備面積については、琵琶湖森林づくり事業の主要施策として、その実績面積を中期目標の成果指標として掲げています。

(目標) 平成15年度 0ha 平成21年度 800ha(累計)

(成果) 平成21年度 553ha

(達成率) 69.1%

【年間間伐実施面積】

本県の森林は、特に間伐を必要とする人工林が多い状況にあることから、環境林整備をはじめとする積極的な間伐に取り組んでおります。

(目標) 平成15年度 1,920ha/年 平成21年度 2,600ha/年

(成果) 平成20年度 2,525ha/年(H21実績集計中)

(達成率) 97.1%

【年間間伐材利用量】

間伐材を搬出し、製品として活用することで、資源の循環と二酸化炭素の固定による地球温暖化防止に貢献することを目的としています。

(目標) 平成15年度 2,000m<sup>3</sup>/年 平成21年度 4,000m<sup>3</sup>/年

(成果) 平成20年度 3,740m<sup>3</sup>/年(H21実績集計中)

(達成率) 93.5%

基本指標(H17～32までの目標)

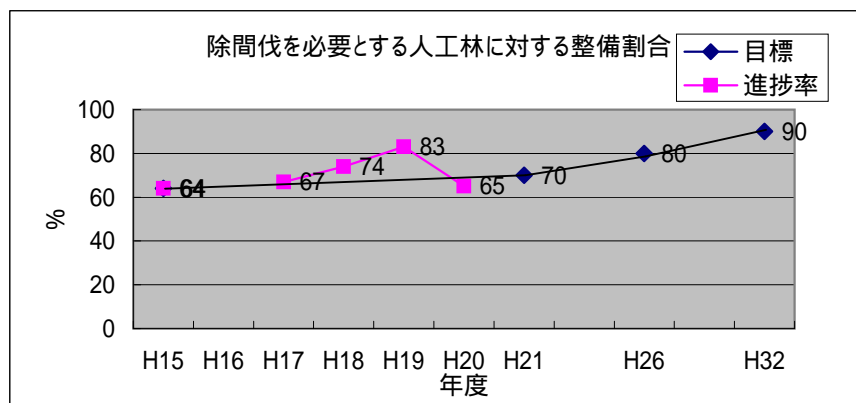
環境に配慮しながら木材資源の循環利用を目指す森林については、地域の実情に応じた効率的・効果的な森林整備を推進する。また、森林の持つ多面的機能を持続的に発揮させるよう整備管理していく森林へ転換する人工林については、針広混交林へと誘導することを施策目標に、人工林の特性に配慮した森林整備の推進に取り組みました。

【除間伐を必要とする人工林に対する整備割合】

(目標) 平成15年度 64% 平成21年度 70% 平成32年度 90%

(成果) 平成20年度 65%(H21数値集計中)

(達成率) 4%



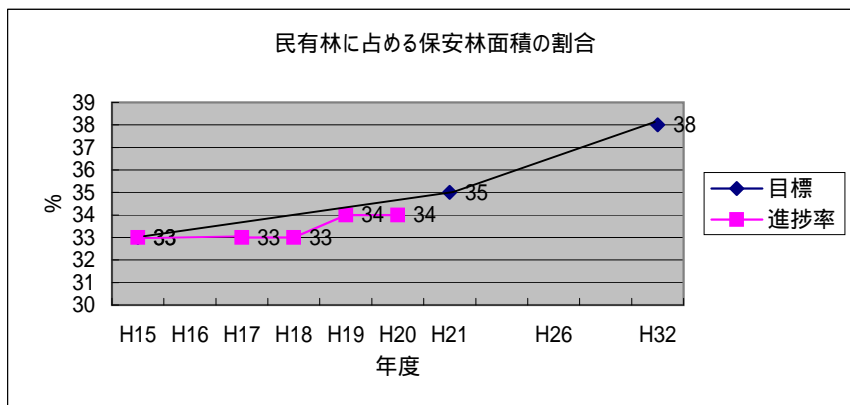
森林の多面的機能を十全に発揮させるような森林整備に努めることを施策目標に、森林管理の推進を図りました。

【民有林に占める保安林面積の割合】

(目標) 平成15年度 33% 平成21年度 35% 平成32年度 38%

(成果) 平成20年度 34% (H21数値集計中)

(達成率) 16%

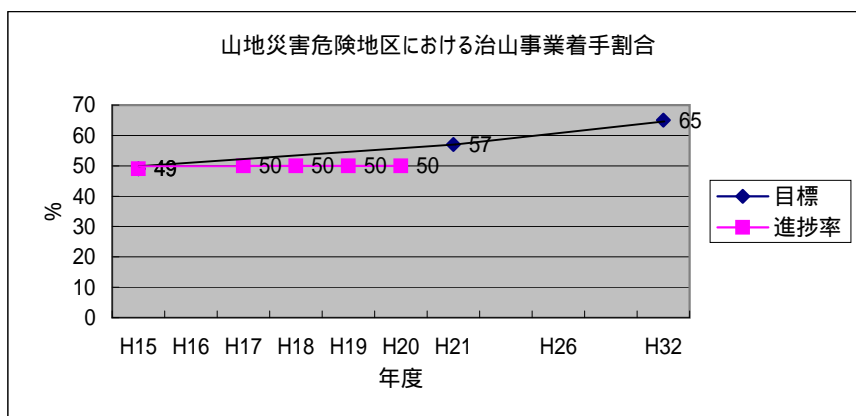


【山地災害危険地区における治山事業着手割合】

(目標) 平成15年度 49% 平成21年度 57% 平成32年度 65%

(成果) 平成20年度 50% (H21数値集計中)

(達成率) 9%



## ( ) 県民の協働による森林づくりの推進

中期目標(H17～21までの目標)

【森林づくり活動市民団体年間延べ活動日数】

活動支援により、森林づくり活動が活発となり、森林づくり活動絵お実践している市民団体の活動日数も増加しています。

(目標) 平成15年度 190日/年 平成21年度 400日/年

(成果) 平成20年度 482日/年(H21数値集計中)

(達成率) 139%

【流域森林づくり委員会設置数】(再掲)

(目標) 平成15年度 0地区 平成21年度 7地区

(成果) 平成21年度 6地区

(達成率) 86%

基本指標(H17～32までの目標)

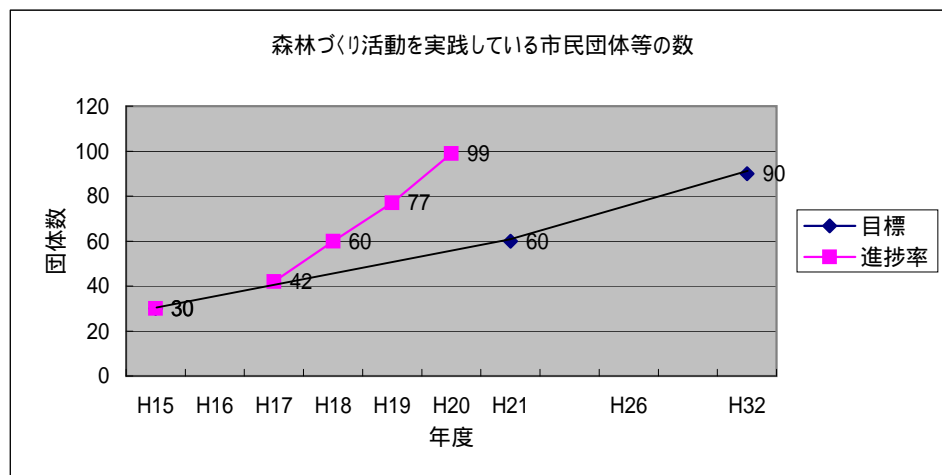
県民が主体的に森林づくりに参加できるよう森林・林業の情報提供や上下流連携による森林づくり活動を進める。また、流域の森林づくりのあり方、進め方について、広く県民が協働で活動できる組織の整備や活動を支援することを施策目的に、県民の主体的な参画の促進に取り組みました。

【森林づくりを実践している市民団体等の数】

(目標) 平成15年度 30団体 平成21年度 60団体 平成32年度 90団体

(成果) 平成20年度 99団体(H21数値集計中)

(達成率) 115%



県民の身近に存する里山について、県民協働で行う森林の整備保全活動を支援することを施策目的に、里山の整備・利活用の促進に取り組みました。

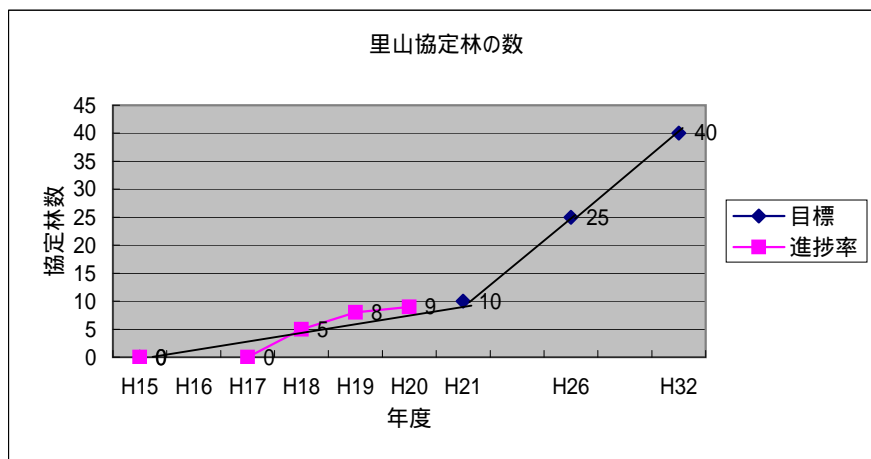
【里山整備協定林の数】

里山をフィールドに、計画から実行まで地域が協働して取り組む継続的な里山保全活動への支援を図りました。

(目標) 平成15年度 0箇所 平成21年度 10箇所 平成32年度 40箇所

(実績) 平成21年度 11箇所

(達成率) 27.5%



びわ湖水源のもりづくりの日・びわ湖水源のもりづくり月間が定着することを施策目標に、様々なメディアを通じた普及啓発の取り組みを行いました。

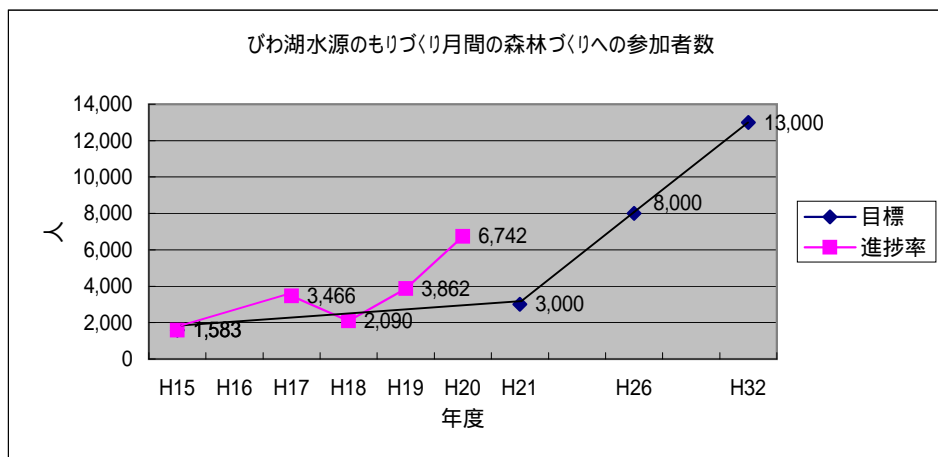
【びわ湖水源のもりづくり月間の森林づくり(取り組み)への参加者数】

森林づくりに対する県民の理解を深めるため、びわ湖水源のもりづくり月間(10月)にあわせて、各種の森林づくり活動を積極的に実施し、一般県民等が気軽に参加できる場を提供してきました。

(目標)平成15年度 1,583人      平成21年度 3,000人      平成32年度 13,000人

(成果)平成20年度 6,742人(H21数値集計中)

(達成率) 45%



## ( ) 森林資源の循環利用の促進

中期目標(H17～21までの目標)

【県産材の学習机累積導入数】(再掲)

(目標) 平成15年度 2,700セット      平成21年度 16,200セット

(成果) 平成20年度 11,033セット

(達成率) 61.7%

【びわ湖材産地証明割合】(再掲)

(目標) 平成15年度 -      平成21年度 20%

(成果) 平成20年度 42%(H21数値集計中)

(達成率) 210%

基本指標(H17～32までの目標)

住宅建築や公共事業などへの県産材の利用の拡大のための仕組みづくりに取り組み、地産地消絵雄住めることを施策目標に、県産材の利用の促進を図りました。

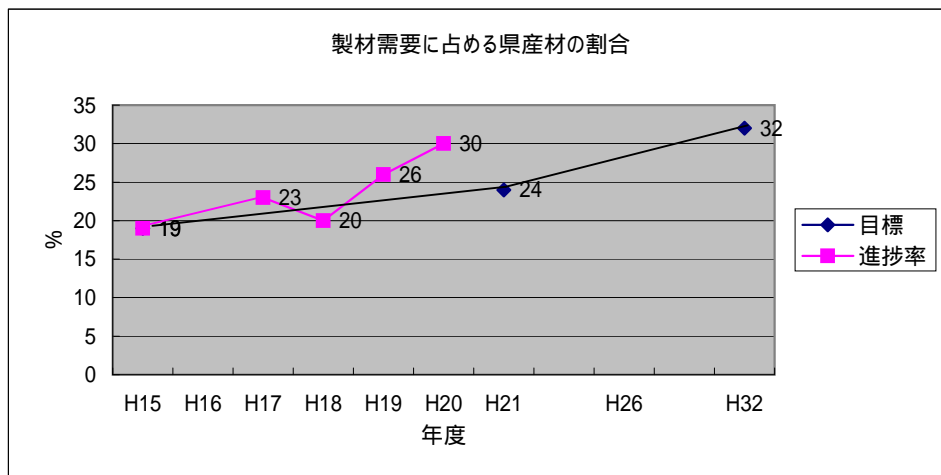
具体的な数値指標としては、以下の通りで、目標のペースを上回る成果となりました。

【製材需要に占める県産材の割合】

(目標) 平成15年度 19%      平成21年度 24%      平成32年度 32%

(成果) 平成20年度 30%(H21数値集計中)

(達成率) 85%



( ) 次代の森林を支える人づくりの推進

中期目標(H17～21までの目標)

【60歳以下の作業員の占める割合】

(目標) 平成15年度 46% 平成21年度 55%

(成果) 平成20年度 59%(H21数値集計中)

(達成率) 144%

【森林組合数】

(目標) 平成15年度 17組合 平成21年度 7組合

(成果) 平成21年度 10組合

(達成率) 70%

【森林環境学習の指導員が常駐する施設数】(再掲)

(目標) 平成15年度 1箇所 平成21年度 10箇所

(成果) 平成21年度 8箇所

(達成率) 78%

基本指標(H17～32までの目標)

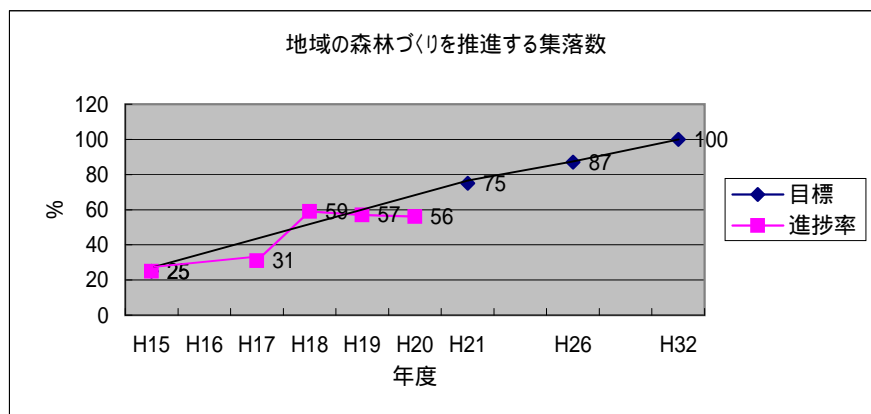
森林所有者・林業従事者が生き生きと森林づくりに取り組めるよう森林整備情報の提供や技術指導に努めることを施策目標に、森林所有者の意欲の高揚に取り組みました。

【地域の森林づくりを推進する集落数】

(目標) 平成15年度 25集落 平成21年度 75集落 平成32年度 100集落

(成果) 平成20年度 56集落(H21数値集計中)

(達成率) 41%



森林組合が地域の森林経営の中核的な担い手としての役割を果たせるよう、組織体制の充実と人材の育成に対して支援することを施策目標に、森林組合の活性化に向けた取り組みを行いました。

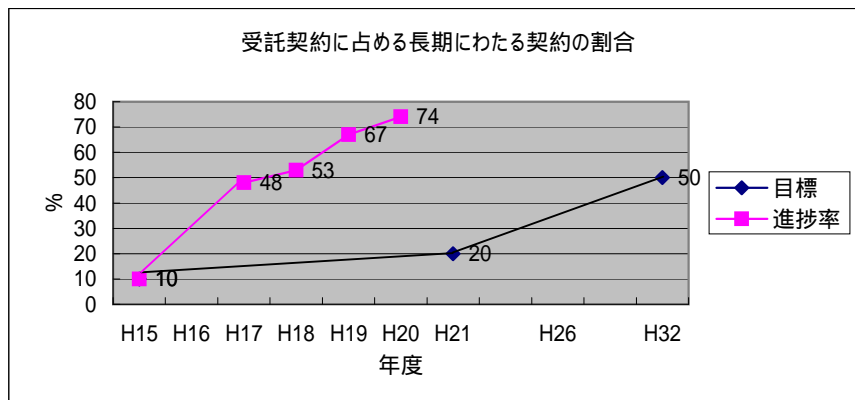
基本指標としては、以下の通りであり、数値目標を上回る結果となりました。

【受託契約に占める長期にわたる契約の割合】

(目標) 平成15年度 10% 平成21年度 20% 平成32年度 50%

(成果) 平成20年度 74%(H21数値集計中)

(達成率) 160%



県民に森林の多面的機能についての理解と関心を深め、森林づくりへの参加意欲の高揚に努めることを施策の目標に、森林環境学習の推進に取り組みました。

具体的な数値指標端も受けていませんが、事業実施の結果、滋賀県内の小学校のほぼ全体にあたる241校の参加により、34,278人の小学校4年生が森林環境学習「やまのこ」事業に参加することができました。

子どもたちが、体験を通じて森林への理解をより一層深めるためには、ゆとりあるプログラムの充実を図る必要があり、また、様々な世代への森林環境学習を展開する必要があります。